

．調査の結果

第1節 計画的な生活空間の整備について

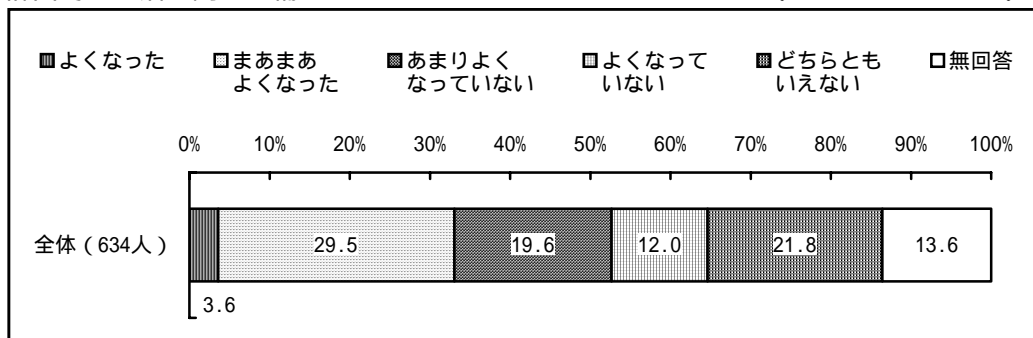
1-1 取り組みに対する評価（問28）

「計画的な生活空間の整備」は、“よくなった”が約3割、“よくなっていない”も約3割。

市街地の整備や景観に配慮したまちづくりの推進など、計画的な生活空間の整備については「よくなった」が3.6%、「まあまあよくなった」が29.5%で、あわせると“よくなった”が33.1%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が19.6%、「よくなっていない」が12.0%で、あわせると“よくなっていない”が31.6%です。

図 計画的な生活空間の整備 (回答者総数：634人)



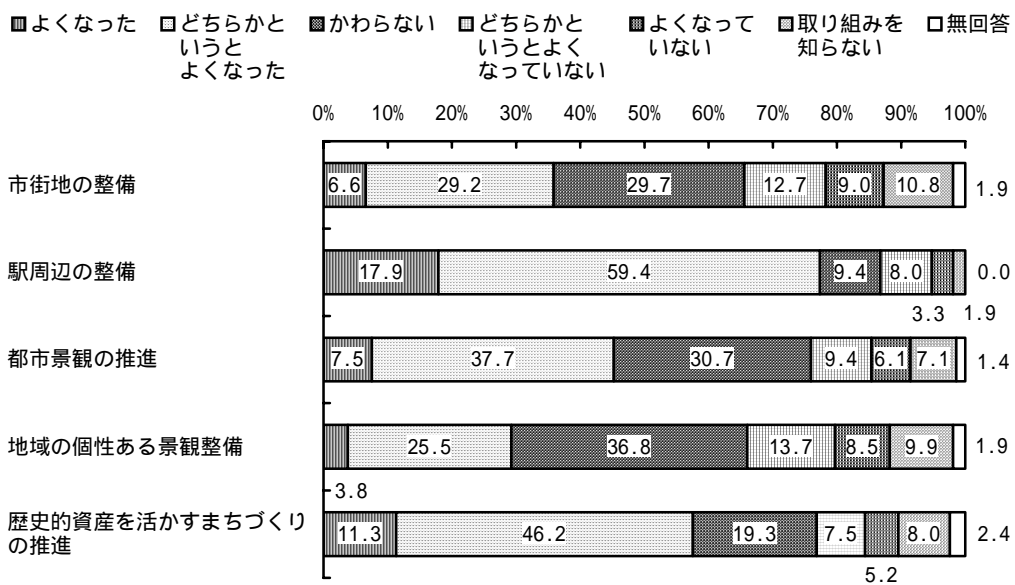
1-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『駅周辺の整備』では7割以上、『歴史的資産を活かすまちづくりの推進』では5割以上、『都市景観の推進』では4割以上を占める。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『駅周辺の整備』では77.3%と7割以上を占め高い評価を得ています。また、『歴史的資産を活かすまちづくりの推進』では57.5%と5割以上を占め、また、『都市景観の推進』では45.2%と4割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：212人）



1-3 関連設問

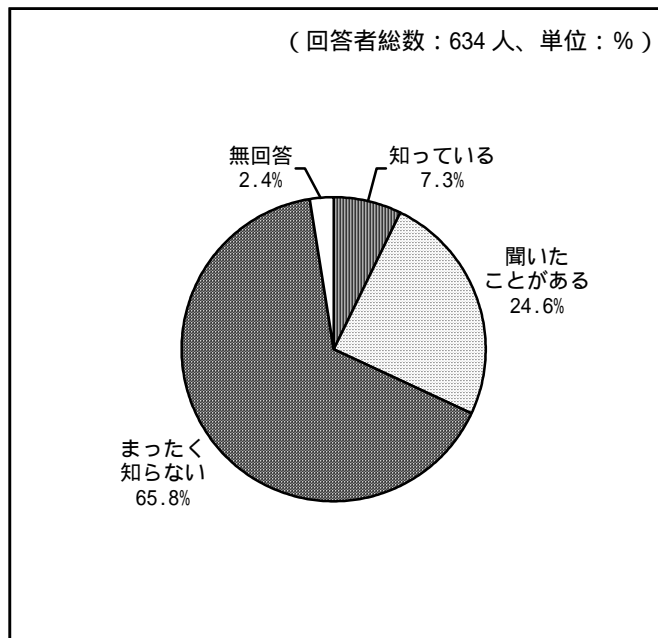
(1) 「佐倉市景観条例」の周知度 (問23)

“知っている・聞いたことがある”が約3割。

地域の特性をいかした良好な景観形成を進めるために、平成12年7月より施行された「佐倉市景観条例」の周知度については、「知っている」が7.3%、「聞いたことがある」が24.6%で、あわせると“知っている・聞いたことがある”という人は31.9%です。

一方、「まったく知らない」は65.8%を占めています。

図 「佐倉市景観条例」の周知度



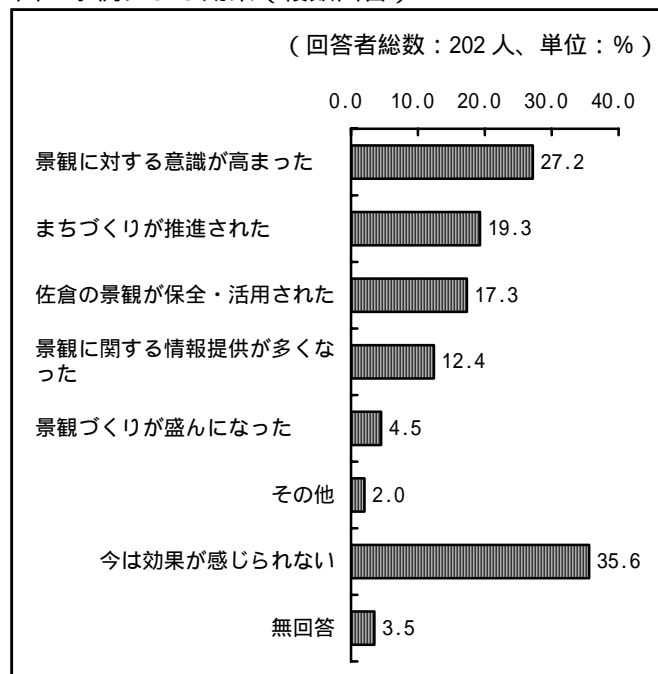
(2) 条例による効果 (問23-1)

「今は効果が感じられない」が約4割。

景観条例を知っている・聞いたことがあるという人に、条例が施行されたことによつてどのような効果があったと思うかについてたずねたところ、「景観に対する意識が高まった」が27.2%となっています。

一方、「今は効果が感じられない」が35.6%と最も高くなっています。

図 条例による効果 (複数回答)

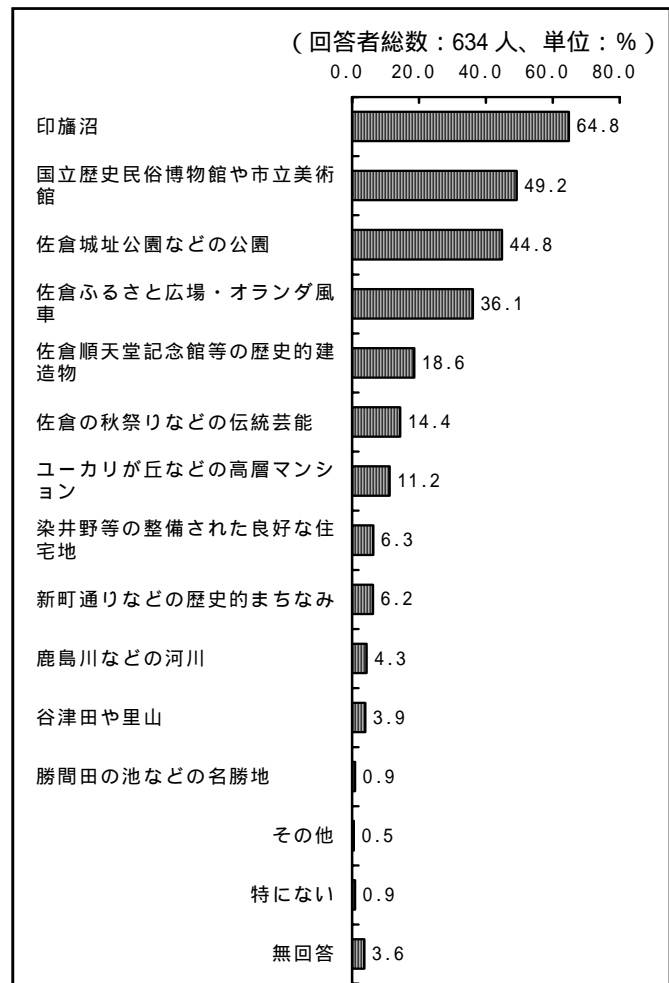


(3) 市を代表する景観(問24)

「印旛沼」が約7割で最も高い。

市を代表する景観については、「印旛沼」が64.8%で最も高くなっています。次いで、「国立歴史民俗博物館や市立美術館」が49.2%、「佐倉城址公園などの公園」が44.8%と続いています。

図 市を代表する景観(複数回答)

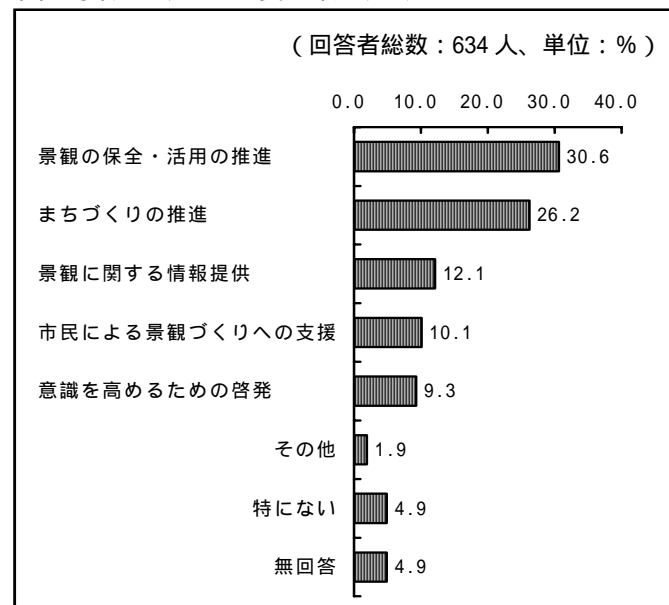


(4) 景観づくりに必要な取り組み(問25)

「景観の保全・活用の推進」が約3割で最も高い。

景観づくりを進める上で、市が特に取り組むべきことについては、「景観の保全・活用の推進」が30.6%で最も高く、次いで景観に配慮した「まちづくりの推進」が26.2%となっています。

図 景観づくりに必要な取り組み

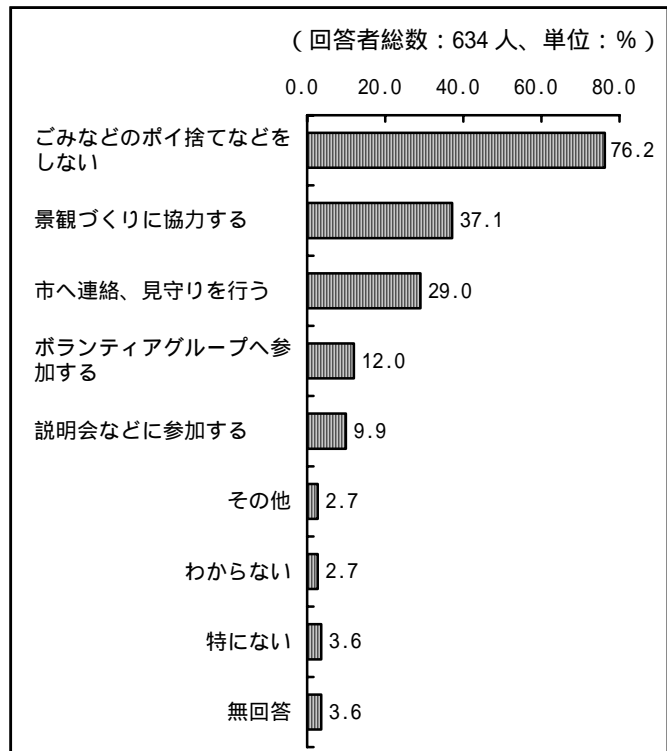


(5) 参加したいと思う景観づくり活動(問26)

「ごみなどのポイ捨てなどをしない」が約8割で最も高い。

景観づくり活動においても市民の理解と協力が必要です。どのような景観づくり活動をしたいかについては、「ごみなどのポイ捨てなどをしない」が76.2%で最も高くなっています。次いで、「景観づくりに協力する」が37.1%となっています。

図 参加したいと思う景観づくり活動(複数回答)

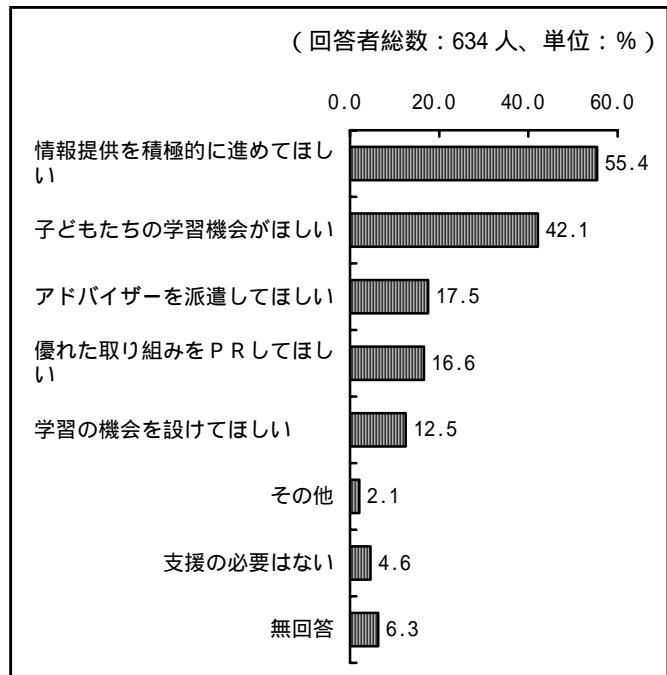


(6) 市に支援してほしいこと(問27)

「情報提供を積極的に」が約6割。

市民が主体的に景観づくりを進めていく時、どのような支援が必要だと思うかについては、「情報提供を積極的に進めてほしい」が55.4%で最も高くなっています。次いで、「子どもたちの学習機会がほしい」が42.1%となっています。

図 市に支援してほしいこと(複数回答)



第2節 道路・交通施設の整備について

2-1 取り組みに対する評価（問28）

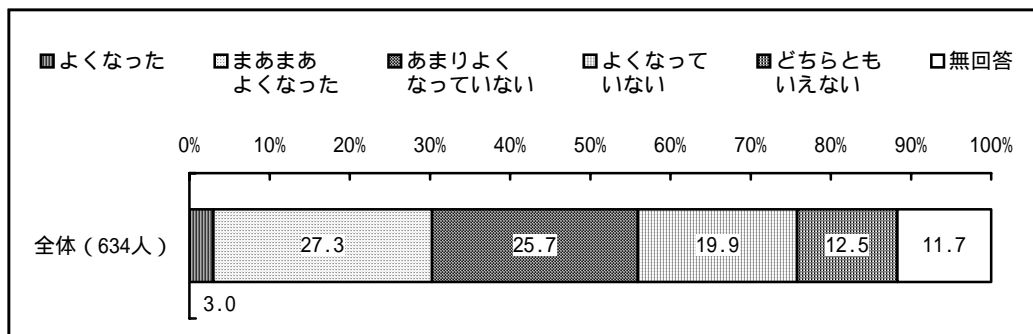
「道路・交通施設の整備」は、「よくなった」が約3割、「よくなっていない」が約5割。

道路の整備や公共交通の充実など、道路・交通施設の整備については「よくなった」が3.0%、「まあまあよくなった」が27.3%で、あわせると「よくなった」が30.3%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が25.7%、「よくなっていない」が19.9%で、あわせると「よくなっていない」が45.6%です。

図 道路・交通施設の整備

（回答者総数：634人）



2-2 施策に対する満足度（満足度評価）

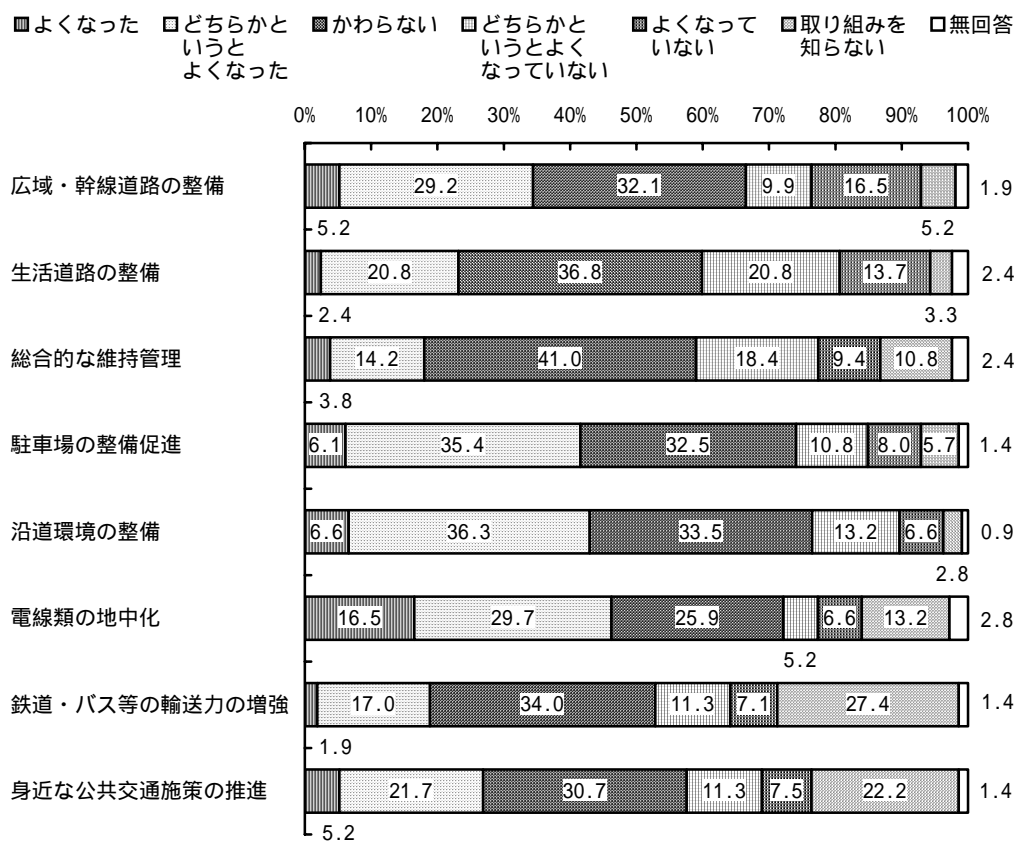
“よくなった”が『電線類の地中化』、『沿道環境の整備』、『駐車場の整備促進』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというによくなった」をあわせた“よくなった”が、『電線類の地中化』では46.2%、『沿道環境の整備』では42.9%、『駐車場の整備促進』では41.5%と4割以上を占めています。

その一方、『鉄道・バス等の輸送力の増強』では18.9%、『総合的な維持管理』では18.0%と2割を下回り評価が低くなっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：212人）



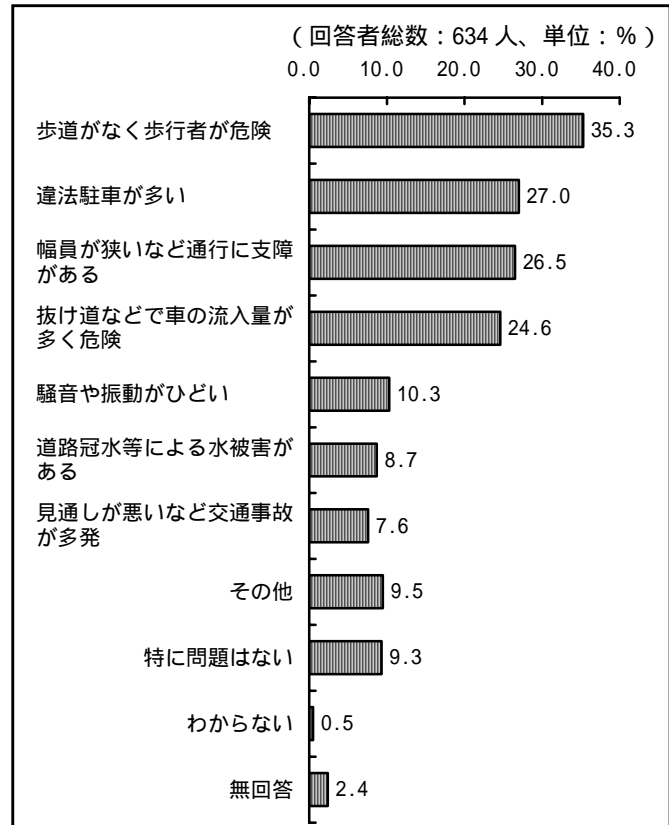
2-3 関連設問

(1) 身近な道路について(問7)

「歩道がなく歩行者が危険」が約4割で最も高い。

地域の身近な道路に対してどのように感じているかについては、「歩道がなく歩行者が危険」が35.3%で最も高くなっています。次いで、「違法駐車が多い」が27.0%、「幅員が狭いなど通行に支障がある」が26.5%、「抜け道などで車の流入量が多く危険」が24.6%と続いています。

図 身近な道路について(複数回答)

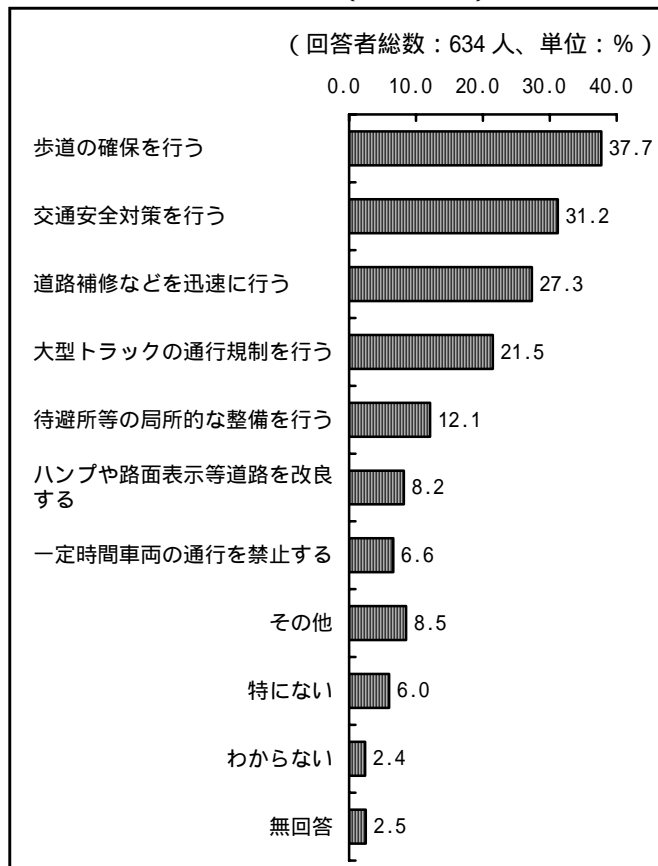


(2) 早急に対応すべきこと(問8)

「歩道の確保を行う」が約4割で最も高い。

市では、関係者の理解と協力を得ながら、順次、道路整備を進めています。身近な道路の改善として早急に対応すべきことについては、「歩道の確保を行う」が37.7%で最も高くなっています。次いで、カーブミラーや看板の設置など「交通安全対策を行う」が31.2%、「道路補修などを迅速に行う」が27.3%と続いています。

図 早急に対応すべきこと(複数回答)

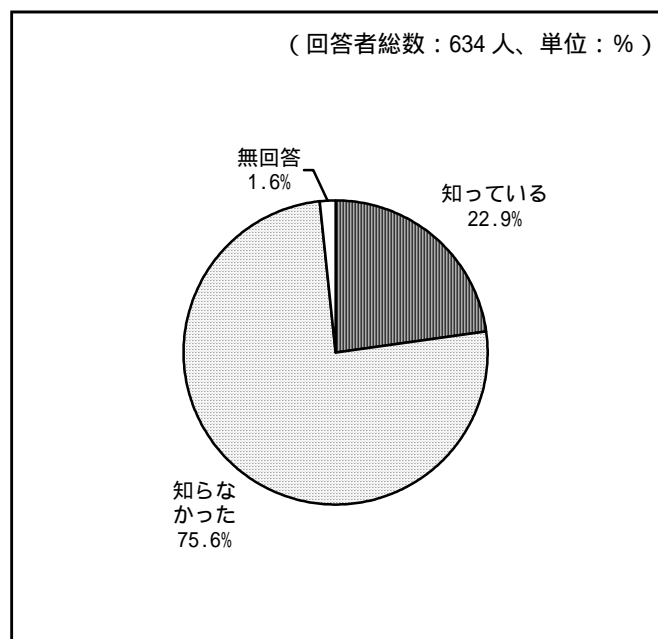


(3) 電線類地中化への取り組みの周知度(問9)

「知らなかった」が約8割。

都市景観の向上、交通安全の確保、都市災害防止等を目的に、京成臼井駅(南側)と京成志津駅(南側)の2か所において電線の地中化を進めてきました。市が電線類地中化に取り組んでいることを知っているかについては、「知っている」が22.9%、「知らなかった」が75.6%となっています。

図 電線類地中化への取り組みの周知度

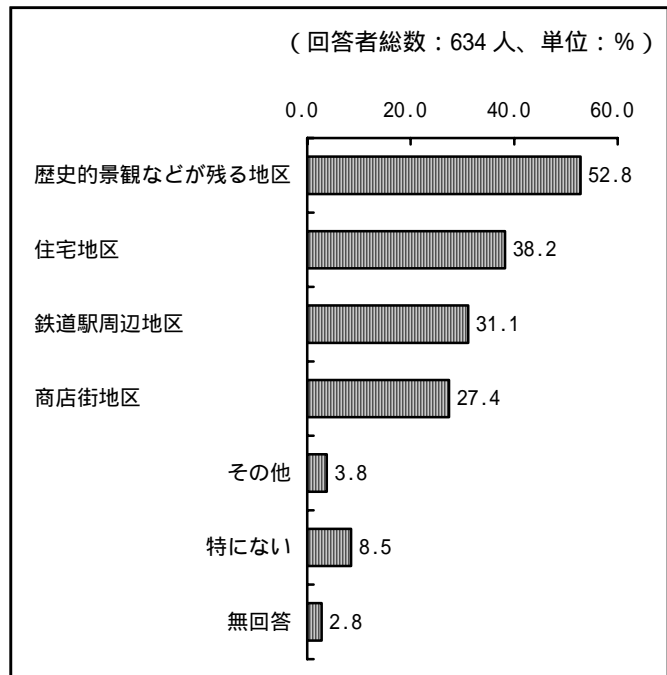


(4) 電線類地中化整備にふさわしい場所(問10)

「歴史的景観などが残る地区」が約5割で最も高い。

電線の地中化は、都市景観の向上や防災等の観点から重要な役割をはたす一方で、整備にあたっては、多くの費用と時間がかかります。そのことを踏まえて、電線の地中化にふさわしいと感じる場所については、「歴史的景観などが残る地区」が52.8%で最も高くなっています。次いで「住宅地区」が38.2%となっています。

図 電線類地中化整備にふさわしい場所(複数回答)

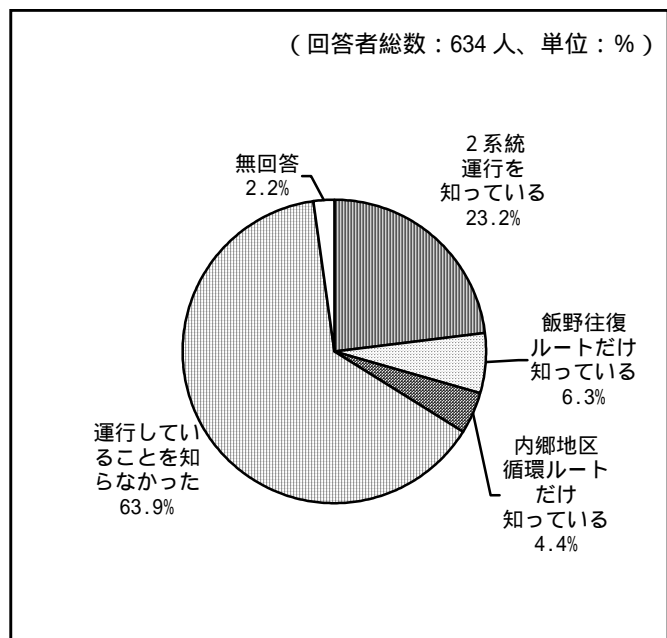


(5) 市内循環バスの運行状況の周知度(問11)

「運行していることを知らなかった」が約6割を占める。

循環バスが2系統(飯野往復ルート・内郷地区循環ルート)運行されていることを知っているかについては、「運行していることを知らなかった」が63.9%を占めています。また、「2系統運行を知っている」は23.2%となっています。

図 市内循環バスの運行状況の周知度

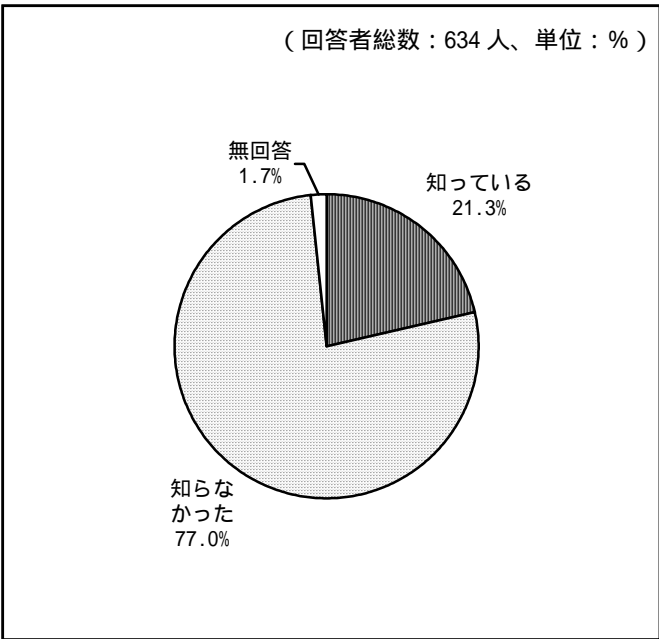


(6) バスに関する市の取り組みへの周知度 (問12)

「知らなかった」が約8割を占める。

市では、交通空白地域の解消および車を運転できない高齢者等の生活の足を確保するため、廃止路線に市循環バスを運行したり、民間赤字バス路線に対して補助金を出して運行しています。このようなことを知っているかについては、「知っている」は21.3%で、「知らなかった」は77.0%となっています。

図 バスに関する市の取り組みへの周知度

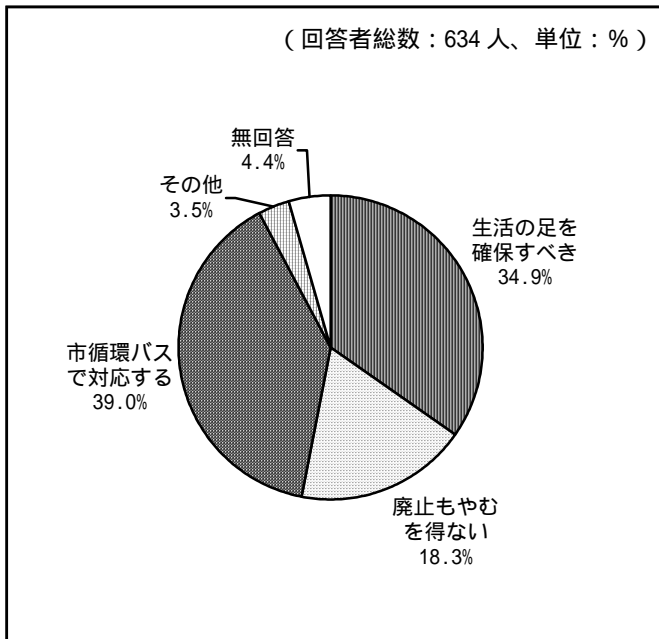


(7) 赤字バス路線について (問13)

「市循環バスで対応する」が約4割。

国の規制緩和によって、民間のバス会社の参入や撤退が容易になり、市内では赤字バス路線の撤退が危惧されています。赤字バス路線をどのように考えるかについては、「市循環バスで対応する」が39.0%を占めています。また、市が運行経費を補助して「生活の足を確保すべき」が34.9%となっています。

図 赤字バス路線について

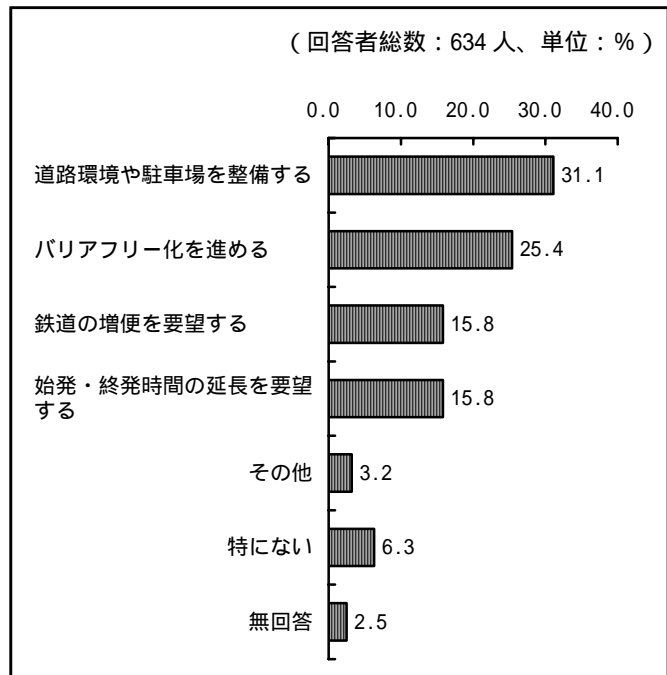


(8) 鉄道に期待する取り組み(問14)

「道路環境や駐車場を整備する」が約3割。

鉄道輸送をいっそう充実させるために、どのような取り組みを期待するかについては、「道路環境や駐車場を整備する」が31.1%で最も高くなっています。次いで、「バリアフリー化を進める」が25.4%となっています。

図 鉄道に期待する取り組み

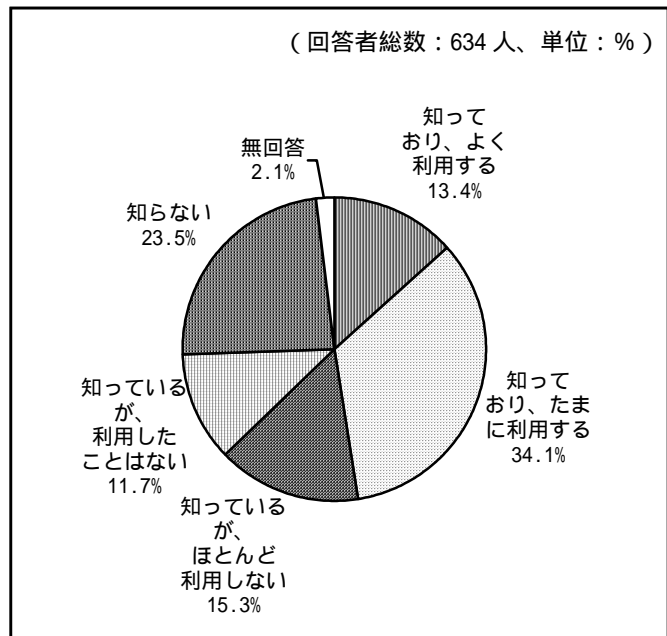


(9) 道の駅の周知度と利用状況(問15)

“利用する”が約5割を占める。

道の駅の周知度と利用状況については、「知っており、よく利用する」が13.4%、「知っており、たまに利用する」34.1%となっています。これらをあわせると“利用する”が47.5%を占めています。

図 道の駅の周知度と利用状況

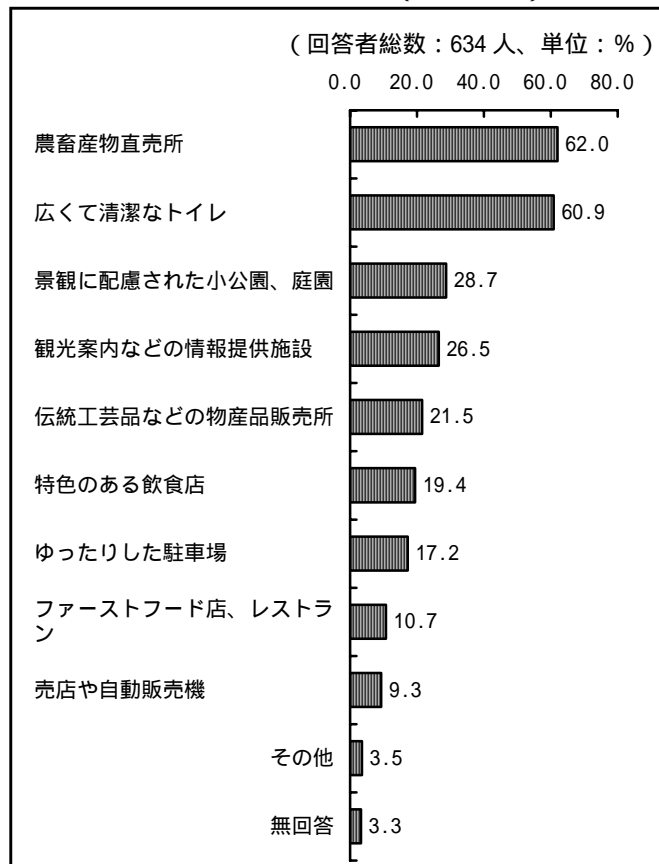


(10) 道の駅に必要な施設や整備(問16)

「農畜産物直売所」と「トイレ」が約6割。

市内に道の駅のような休憩施設を整備する場合、どのような施設や設備が必要だと思われるかについては、「農畜産物直売所」が62.0%、「広くて清潔なトイレ」が60.9%となっています。

図 道の駅に必要な施設や整備(複数回答)



第3節 住環境の整備について

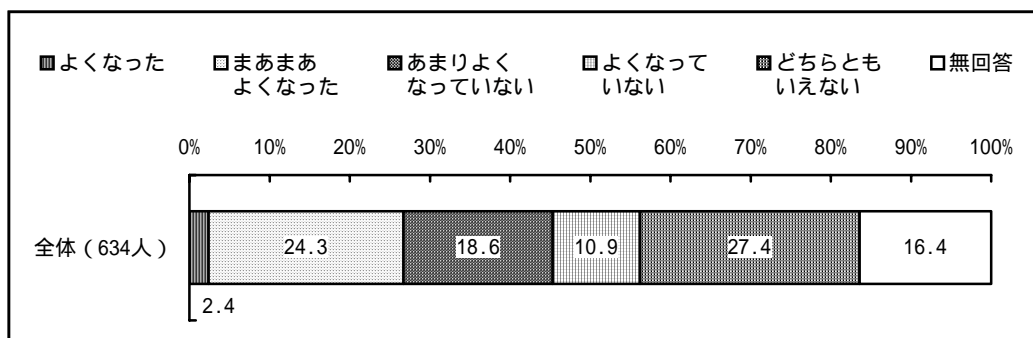
3-1 取り組みに対する評価（問28）

「住環境の整備」は、“よくなった”が約3割、“よくなっていない”も約3割。

良質な住宅の提供など、住環境の整備については「よくなった」が2.4%、「まあまあよくなった」が24.3%で、あわせると“よくなった”が26.7%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が18.6%、「よくなっていない」が10.9%で、あわせると“よくなっていない”が29.5%です。

図 住環境の整備について (回答者総数：634人)



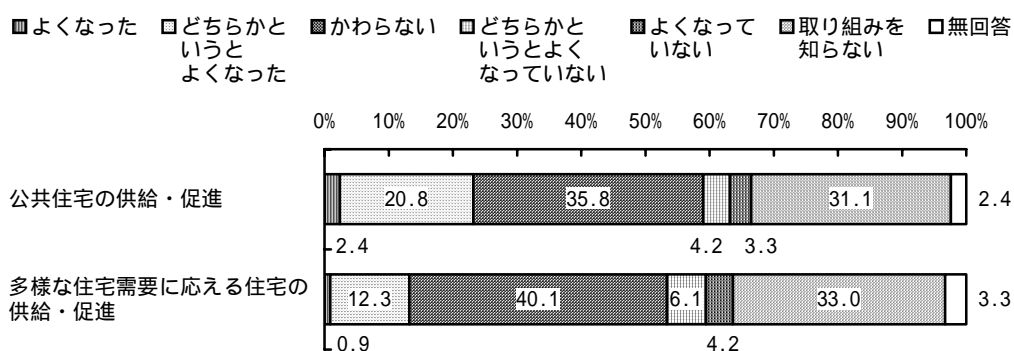
3-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『多様な住宅需要に応える住宅の供給・促進』では1割台となっており、どちらも「取り組みを知らない」が3割以上を占める。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”がどちらも3割を下回り、特に評価が低いのは『多様な住宅需要に応える住宅の供給・促進』で13.2%と1割台となっています。

また、「取り組みを知らない」がどちらも3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：212人)



第4節 水辺環境の整備と保全について

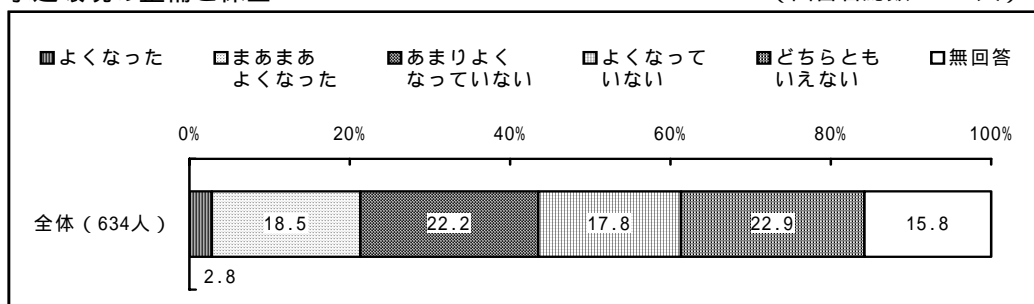
4-1 取り組みに対する評価（問28）

「水辺環境の整備と保全」は、“よくなった”が約2割、“よくなっていない”が約4割。

総合的な治水対策や良好な水辺空間の形成など、水辺環境の整備と保全については「よくなった」が2.8%、「まあまあよくなった」が18.5%で、あわせると“よくなった”が21.3%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が22.2%、「よくなっていない」が17.8%で、あわせると“よくなっていない”が40.0%です。

図 水辺環境の整備と保全 (回答者総数：634人)

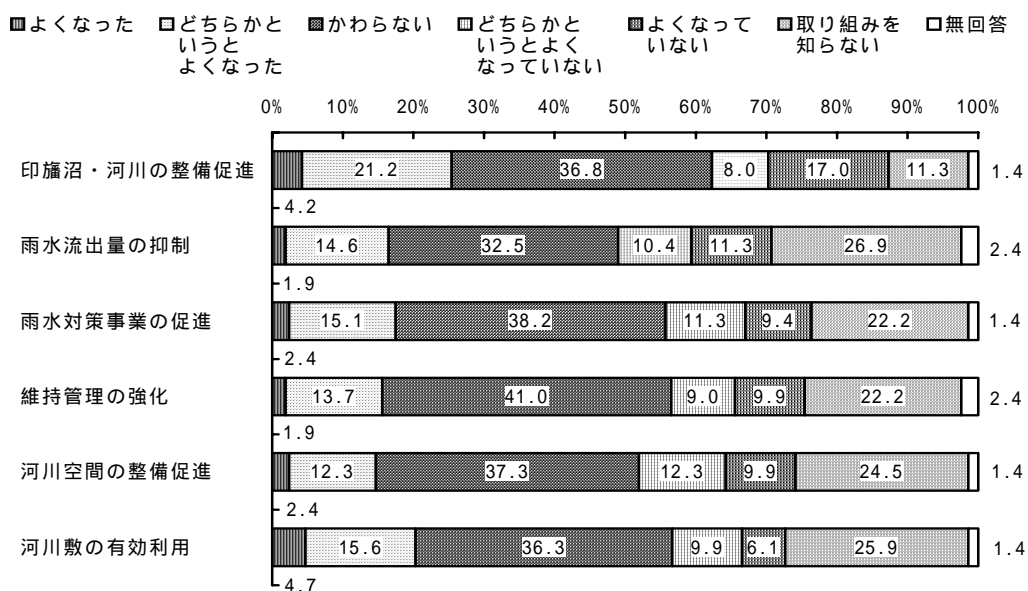


4-2 施策に対する満足度（満足度評価）

特に評価が低いのは『雨水対策事業の促進』、『雨水流出量の抑制』、『維持管理の強化』、『河川空間の整備促進』。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”がすべて3割を下回り、特に評価が低いのは『雨水対策事業の促進』では17.5%、『雨水流出量の抑制』では16.5%、『維持管理の強化』では15.6%、『河川空間の整備促進』では14.7%と1割台となっています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：212人)



第5節 公園・緑地の整備と保全について

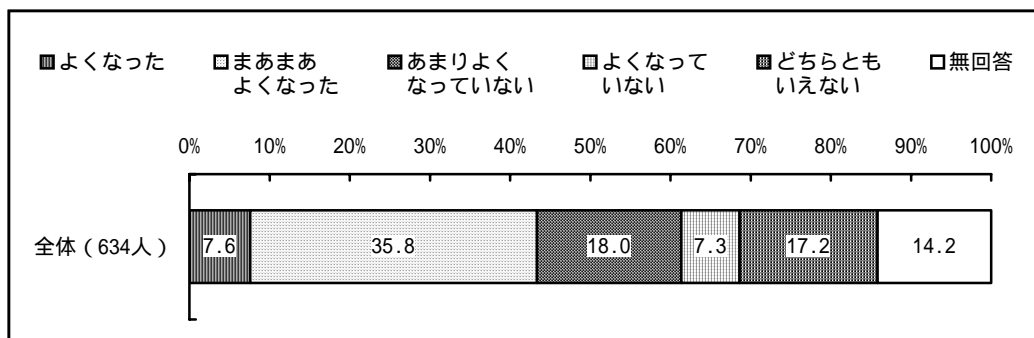
5-1 取り組みに対する評価（問28）

「公園・緑地の整備と保全」は、“よくなった”が約4割、“よくなっていない”が約3割。

公園の整備や緑地の保全など、公園・緑地の整備と保全については「よくなった」が7.6%、「まあまあよくなった」が35.8%で、あわせると“よくなった”が43.4%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が18.0%、「よくなっていない」が7.3%で、あわせると“よくなっていない”が25.3%です。

図 公園・緑地の整備と保全 (回答者総数：634人)

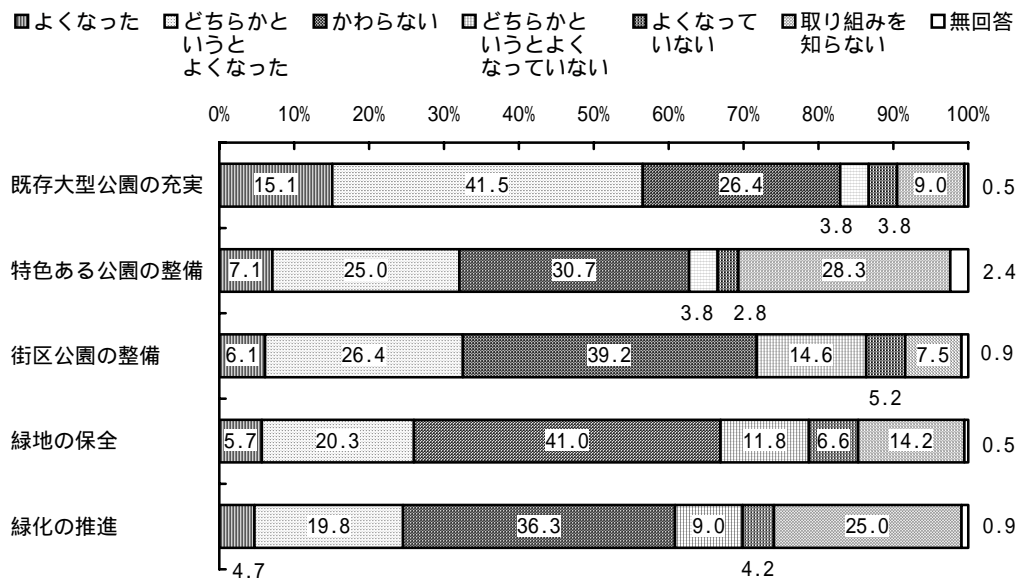


5-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『既存大型公園の充実』では5割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『既存大型公園の充実』では56.6%と5割以上を占め高い評価を得ています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：212人)



5-3 関連設問

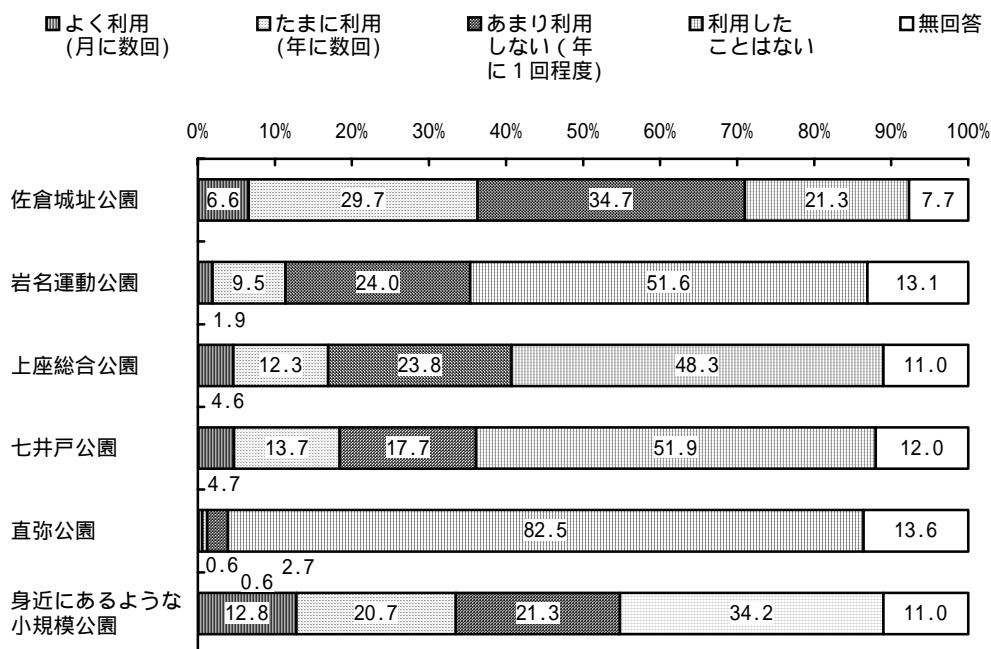
(1) 公園の利用状況(問17)

『身近にあるような小規模の公園』や『佐倉城址公園』で利用度が高い。

公園の利用状況について各項目でたずねました。その結果、「よく利用(月に数回)」と「たまに利用(年に数回)」が比較的高かったのは、『身近にあるような小規模公園』や『佐倉城址公園』でした。また一方、「利用したことはない」が特に高かったのは『直弥公園』です。『岩名運動公園』や『七井戸公園』でも「利用したことはない」が過半数で、利用度は低くなっています。

図 公園の利用状況

(回答者総数: 634人)

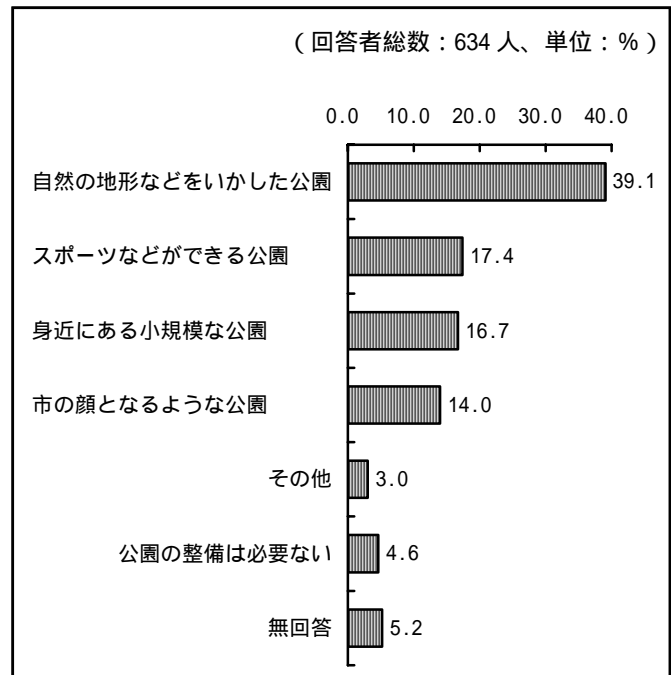


(2) 市内に整備してほしい公園(問18)

「自然の地形などをいかした公園」が約4割で最も高い。

どのような公園を整備してほしいかについては、印旛沼や小河川、谷津など「自然の地形などをいかした公園」が39.1%で最も高くなっています。

図 市内に整備してほしい公園

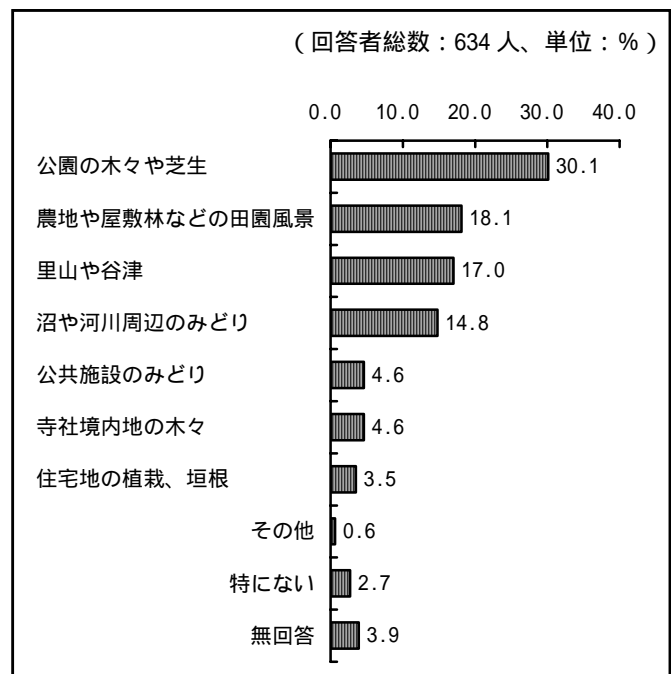


(3) 『みどり』や『緑地』のイメージ(問19)

「公園の木々や芝生」が約3割で最も高い。

市内の『みどり』や『緑地』といったときにどのようなものをイメージするかについては、「公園の木々や芝生」が30.1%で最も高くなっています。次いで、「農地や屋敷林などの田園風景」が18.1%、「里山や谷津」が17.0%と続いています。

図 『みどり』や『緑地』のイメージ



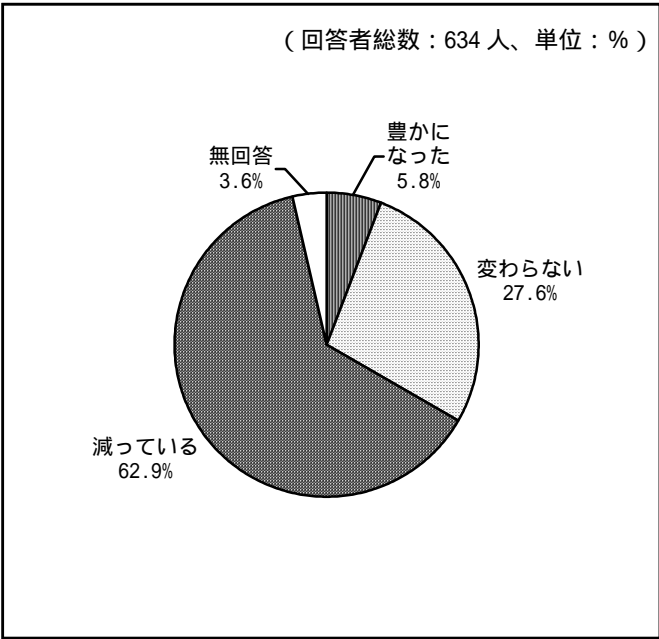
(4) 身近な木々やみどりの変化について(問20)

「減っている」が約6割。

身の回りの木々やみどりなどの変化についてどのように感じているかについては、「豊かになった」が5.8%、「変わらない」が27.6%となっています。

一方、「減っている」が62.9%を占めています。

図 身近な木々やみどりの変化について

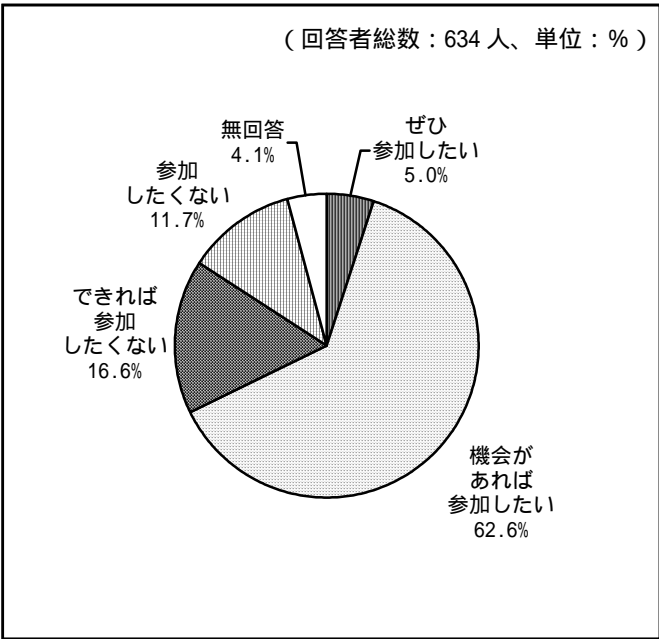


(5) 公園や緑地の維持管理活動への参加意向(問21)

参加意向のある人は約7割。

良好な生活環境を維持していくためには、市の取り組みはもちろんのこと、地域住民の協力が不可欠です。今後、公園の維持管理や緑地の保全などの活動に参加したいと思うかについては、「ぜひ参加したい」が5.0%、「機会があれば参加したい」が62.6%で、あわせると参加意向のある人が約7割を占めています。

図 公園や緑地の維持管理活動への参加意向



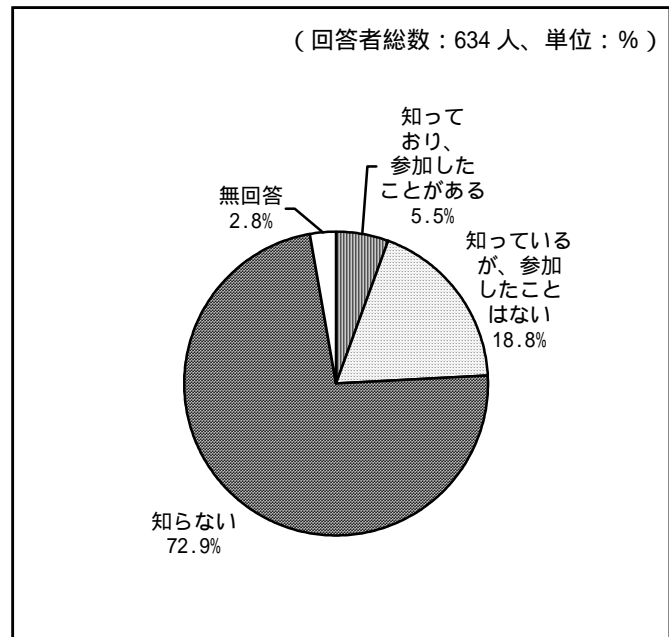
(6) 市民団体への支援への周知度(問22)

「知らない」が約7割。

市では、市民と協働して公園の維持管理をするため、公園の除草、清掃、草刈り、ごみの収集等を協力する団体に対して支援を行っています。このような市民団体への支援の周知度については、「知っており、参加したことがある(している)」が5.5%、「知っているが、参加したことはない」が18.8%となっています。

一方、「知らない」が72.9%を占めています。

図 市民団体への支援への周知度



第6節 上下水道の整備について

6-1 取り組みに対する評価（問28）

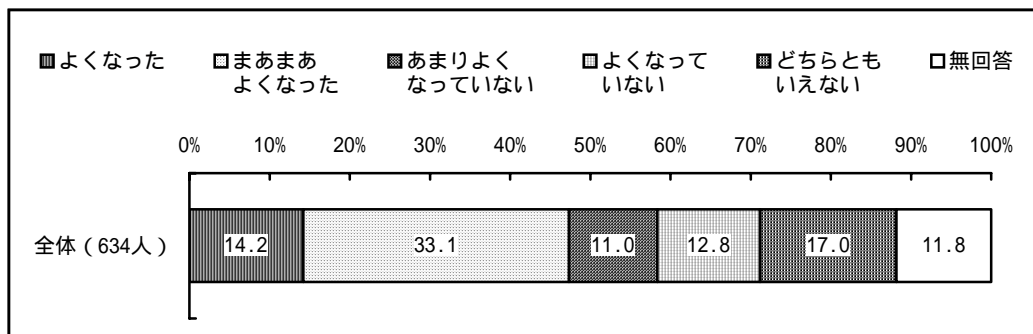
「上下水道の整備」は、“よくなった”が約5割、“よくなっていない”が約2割。

上水道や下水道の整備など、上下水道の整備については「よくなった」が14.2%、「まあまあよくなった」が33.1%で、あわせると“よくなった”が47.3%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が11.0%、「よくなっていない」が12.8%で、あわせると“よくなっていない”が23.8%です。

図 上下水道の整備

（回答者総数：634人）



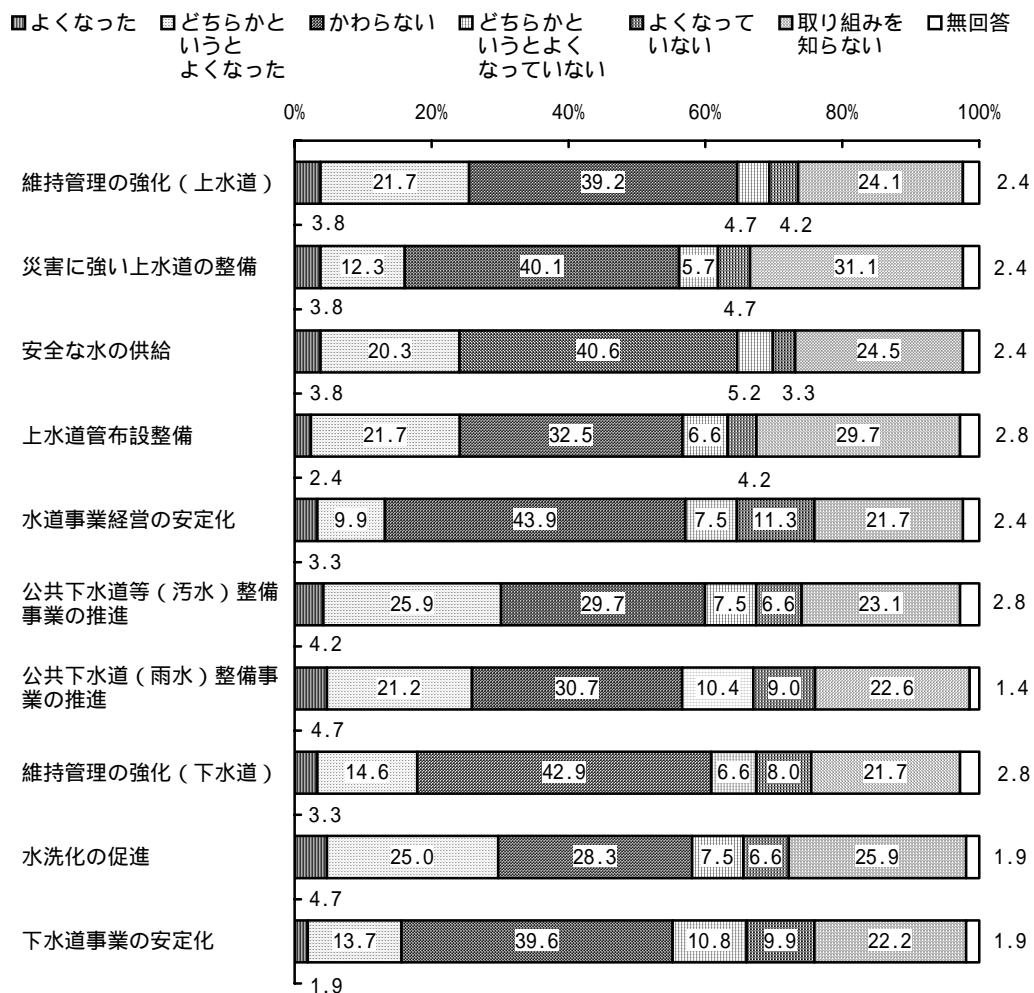
6-2 施策に対する満足度（満足度評価）

特に評価が低いのは『維持管理の強化（下水道）』、『災害に強い上水道の整備』、『下水道事業の安定化』、『水道事業経営の安定化』。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”がすべて4割を下回っており、特に評価が低いのは『維持管理の強化（下水道）』では17.9%、『災害に強い上水道の整備』では16.1%、『下水道事業の安定化』では15.6%、『水道事業経営の安定化』では13.2%となっています。

また、「取り組みを知らない」が『災害に強い上水道の整備』では3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：212人)



第7節 情報通信機能の整備について

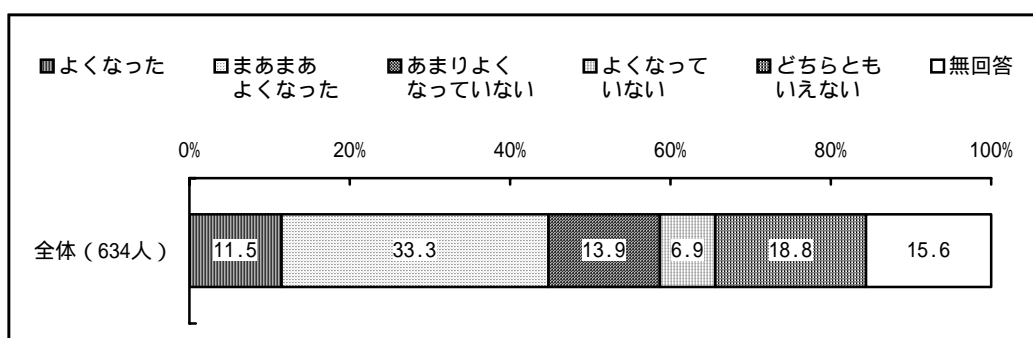
7-1 取り組みに対する評価（問28）

「情報通信機能の整備」は、“よくなった”が約5割、“よくなっていない”が約2割。

CATVの整備など、情報通信機能の整備については「よくなった」が11.5%、「まあまあよくなった」が33.3%で、あわせると“よくなった”が44.8%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が13.9%、「よくなっていない」が6.9%で、あわせると“よくなっていない”が20.8%です。

図 情報通信機能の整備 (回答者総数：634人)

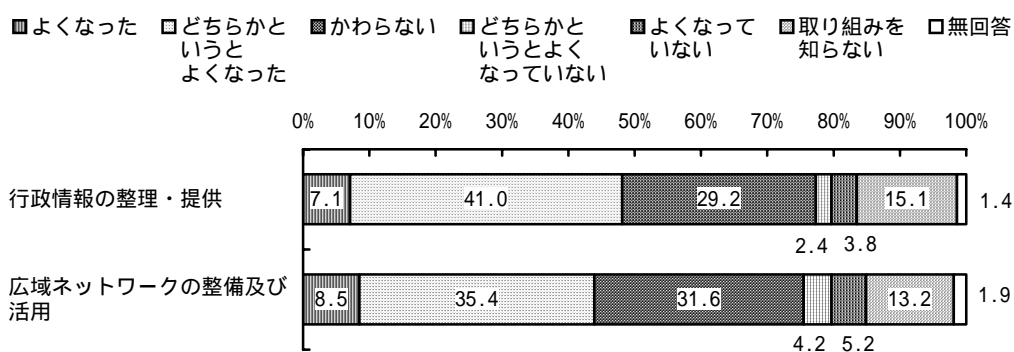


7-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『行政情報の整理・提供』と『広域ネットワークの整備及び活用』で4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『行政情報の整理・提供』では48.1%、『広域ネットワークの整備及び活用』では43.9%と4割以上を占めています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：212人)



第8節 重点的に取り組むべき施策

8-1 重点的に取り組むべき施策（問29）

「道路・交通施設の整備」が最も高く、次いで「計画的な生活空間の整備」が続く。

「都市基盤」について、これからの5年間（平成18年度～22年度）重点的に取り組むべき施策をたずねたところ、道路整備や公共交通の充実など「道路・交通施設の整備」が59.9%で、最も高くなっています。次いで、市街地の整備や景観に配慮したまちづくりなど「計画的な生活空間の整備」が26.7%、総合的な治水対策や良好な水辺空間の形成など「水辺環境の整備と保全」が25.1%で続いています。

図 重点的に取り組むべき施策（複数回答）

